

山武市学校のあり方検討委員会 第2回会議録

1 日 時	平成 24 年 12 月 17 日(月) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 52 分
2 場 所	山武市役所 第 3 会議室
3 出席委員	13 名
4 欠席委員	4 名
5 協議事項	① 千葉県内教委における公立小中学校の統合と再編に関する答申等の内容について ② 学校別、学年別児童生徒数の推移 ③ 学校教育における現状と課題 ④ 教育予算・決算等の状況 ⑤ 校舎の整備状況 ⑥ 先進地視察について ⑦ 意見交換 ⑧ その他
6 事務局説明者	教育総務課長、学校教育課指導室長外

○ 開 会

○ 委員長あいさつ

○ 協 議

(1) 千葉県内教委における公立小中学校の統合と再編に関する答申等の内容について

事務局：資料に基づき、千葉県内教委における公立小中学校の統合と再編に関する答申等についての説明

委員長：他の自治体の答申等については、後で読んでおいていただきたいのでご了解いただきたい。
ただ今の説明について質問や意見があれば発言いただきたい。

委員長：南房総市の説明があったが、人口、面積はどれくらいか。

事務局：人口は 42,405 人、面積は 230.22 平方キロ、山武市は 146.38 平方キロである。

委員長：いずれにしても最終的に出していく方針の方向性については、おわかりいただけたと思う。

(2) 学校別、学年別児童生徒の推移

事務局：資料に基づき、学校別、学年別児童生徒の推移の説明

(3) 学校教育における現状と課題

事務局：資料の訂正箇所（5P 中段の「握力」を「走力」に、7P 小学校の表右上段「H36」を「H30」に、「学級数」を「児童数」に、中学校の表右上段「学級数」を「生徒数」に訂正）を報告後、資料に基づき、学校教育における現状と課題の説明。

委員：部活の状況の説明に関して、柔剣道が必修科目になったというのは間違えないか。

事務局：本年度より、柔道若しくは剣道が体育の授業の一つとして実施されている。

委員：資料を見ると、山武南中では平成 24 年度の柔道部(男子)は部員がいなくなっている。

事務局：今年の体育の選択状況をみると、柔道を実施している学校は成東東中のみで、他の学校は剣

道を実施している。

委員長：文部科学省で示した、傾向として少人数学級が好ましい(推進)とのことだが、少人数学級とは何人なのか。

事務局：説明をしましたが、1学級の規模については、大きな基準は40人。ただし、その後少人数に向けた取り組みということで、小学校の1年生と2年生、中学校の1年生は35人、36人になると2学級になる。また、その他の学年については、38人までが1学級、39人になると2学級になるという、弾力的な運用が認められている。ただ、国の施策として全部の学年が35人学級になるかという、まだ、なかなか課題が大きいところである。

委員長：お尋ねしたのは、P4の「そこで、きめ細かで質の高い教育の実現のために少人数学級の推進などが必要となっています。」というところの少人数学級は何人と理解すればいいのか。20人くらいか。

事務局：ここでいう少人数学級は、最大が40人のクラスに対してもう1名職員を配置するもの。全校で全クラスにもう1名配置して20人にするというのではなく、1校に1名の職員を配置して、できる範囲で少人数の学級編成をしてくださいということである。具体的に多くやっているのは、算数(数学)のあるクラスを二つに分けて、20人以下にしてきめ細かな学習をするということである。国のいう少人数学級は35人を目指している。

委員長：少人数というから20人位を目指しているのかと思った。つまり、一人ひとりの子どもたちに目を配るという範囲でいえば20人位がよろしいのでは。

事務局：少人数による指導は15から25人程度が一番効果的であると思う。ただ、国にそれまでの予算がないのか分からないが、35人学級も今実施できていない。そのために、職員を学校に1名派遣してできる範囲で小グループの編成を実施してくださいということである。

委員長：小中一貫校だが教育委員会広報「懸け橋」の中で、教育長が東京都の武蔵村山市の小中一貫校を視察したとあったが、その現状と視察した感想などをお聞かせいただきたい。

教育長：小中一貫は、6年間、3年間で区切ることなく、9年間を同じ方針で教育をするもので、小学校から中学校にあがる時の、中1ギャップなども一貫校にすると無くなると言われて、色々な学校で取り組んでいる。千葉県でも鴨川市で行っている。今回は武蔵村山市へ能勢文教厚生常任委員長ともども行って来たわけだが、私はその前に鴨川市にも行っている。また、いろいろなところからの情報も得ているが、必ずしも最初の狙いが達成されて上手くいっているものではないと捉えている。なかなか難しい面がある。そして、この一貫校も同じ校舎の中で行う一貫校、同じ敷地の中で小中二つの学校がある一貫校、場所が離れた所で行う一貫校等々あるが、場所が離れた所の一貫校は、先生方の多忙等につながって必ずしも成果につながっていないところがある。ですが、全国で統廃合をせざるを得ないような状況において、単なる学校の統廃合ということだけではなく、あり方を考える中の手法として、一貫校という選択も出てくる。また、コミュニティスクールというような方法も手法としてあがっている訳である。先程、各自治体の答申の形態について説明し、その中に小中一貫校の説明があったが、今述べたように、このあり方を考える中で、単なる統廃合、通学、学区の変更、そして、一貫校、コミュニティスクール等々の手法があり、山武市においてもその手法について検討しなければならない地域、学校がある。その際に各自治体の答申の文面を見ると、資料(1P)にある銚子市では「小中一貫校にしても教育活動が大きく変わるものではないこと、多様な部活動ができないために大きな中学校へ進学してしまうこと、学校の小規模化の課題を解決することはできないなどの議論があった。その結果、再編検討委員会として小中一貫校設置の可否を結論付けるのは難しく、選択肢の一つとして慎重に検討すべきである」という意見に集約された。」と謳われている。市原市では一貫校は望ましいとしてい

る。館山市では、先進事例を十分研究しメリット・デメリットを考察し判断する。南房総市や浦安市は、モデル事業として展開をしていくのが望ましい等々あるので、是非、山武市においては、できればこれに関しては、もう少し踏み込んだ答申をいただければありがたいと考えている。

委員長：一貫校においては様々な方法があるとのことだが、小中学校が1つの場合(一貫校として展開していく場合)は学校の名称はどうなるのか。小中学校とでも言うのか。或いは文部科学省で特別な名前を与えているのか。

教育長：それぞれだったと思う。

委員長：校長は1人なのか。別々の所で行う一貫校の場合はそれぞれに校長がいるのか。例えば、武蔵村山市ではどうなのか。

教育長：新しい校名で、校長は1人であったと思う。

委員：一貫校の校長は中学校の校長で、小学校の校長が副校長(3人)である。

事務局：名称は武蔵村山市立小中一貫校村山学園である。

教育長：鴨川市も学園だったと思う。

委員：長狭学園である。

委員長：一貫校のイメージとして伺った。

委員：子どもたちが部活動の有無で学校の選択基準にしていると話があったが、山武市でどれくらい数の動きがあるのか。

委員長：別の話では、山武地区の中学校は東金市から子どもたちが来ていると聞いているが、その辺も含めてお答えいただけるか。

事務局：山武地区の山武南中は東金市源地区と隣接している。源小の子どもたちは日吉台にある東金北中へ通うことになっている。東金北中も子どもの数が減っていて部活動も縮小してきている。山武南中ではある程度人数がいて部活動も充実している。そのようなことも含めて区域外就学で山武南中に通っている子どもたちもいる。山武市の中では、語弊があるといけませんが部活動の有無、強い弱いも含めて1桁の半分ぐらいの数だと思う。A中学校に部活がない、若しくはB中学校の方がその部が充実しているという場合に、学区を変更してB中学校に通う子どもたちが1桁の半分位である。

委員：知っている限りでは6,7人いたので結構いると思う。

委員長：子どもたちが行きたい学校に行けることは幸せだと思う。選択するということはとてもいいことだと思う。

委員：市内の中で動いている分にはまだいいと思うが、知っている限りでは市外に行っている。

教育長：これは委員会同士でやり取りがある。片方の委員会が認めても片方の委員会が認めなければ成立しない。

委員：説明のあった学力の報告、部活の報告、学習の報告は、少人数の学級と普通の学級の生徒によって違いが出るものなのか。

事務局：示させていただいたデータは、今も何年後かも1学級の規模で見っていくと人数はさほど変わらないということである。そういうデータに基づいて少人数による学習は効果的ということだが、現在も15人から25人程度の学習が最も充実すると言われている。将来子どもの数が減って学校も減って、学級数も減るとというのが大方の見方であるとする、1学級の子どもの数も減るのではないかというものに対して、減ってはいないということの裏付けとして示させていただいたものである。ただ、部活動は総数が減るので縮小化もしくは廃部ということになる。

委員：競争するという面はどうか。

事務局：豊かな心というところでは、数が減ることから子どもたちのコミュニケーションは減る。そのことによって、学級の中である程度のランク付けがなされてしまう。もしくは、固定的な人間関係がずっと続くことによって弊害が多々あると思われる。

委員長：一人ひとりの能力をあげるためには15人から25人程度が最も適している。しかし、競争の原理などに置き換えると難しい。それぞれに一長一短があるということであろう。

委員：山武市年齢別人口推計表で2015年の5歳から9歳の数が、2030年ではこの子どもたちの数が100人以上減っていく。大学に行くなどして離れることはあるかと思うが、主にどんなことでこういう推計がされているのか。根拠はあるのか。

委員：社会増減はみているのか。自然増減だけなのか。

事務局：これまでの実数から算定した率で推計されている。

委員：高齢者は亡くなる割合で推測できることはわかる。若い人たち、ここで生まれた子どもたちが、何で15年たったら山武市からこれだけ動いてしまうのか疑問に思ったが、ようするに動いてしまう、そういう数字があるということ認識した。山武市の発展は望めないような気がする。

委員長：この辺は、ある意味人材を供給する供給基地でしかないことは厳然たる事実である。これはこの中であるとき議論しなければならないかもしれないが、ようするに人口というのは経済力のあるところに流れていく。その流れを止めるためには、どういう形でそういう子たちを止めるか、もしくは吸収するかという様々なことを考えて展開していかなければ、この資料で示す数字のとおりになるということを実際として認識する必要がある。冷静に数字を見てびっくりする数字ではあるが。

【5 分間休憩】

(4) 教育予算・決算等の状況

事務局：資料に基づき、教育予算・決算等の状況の説明

(5) 校舎の整備状況

事務局：資料に基づき、校舎の整備状況の説明

委員長：耐用年数がきて今後10年位で改築を迫られる校舎はいくつかあるのか。

事務局：成東中学校である。

委員長：教育委員会としては、どのくらいのスケジュールでそれを検討することになるのか。

教育長：成東中学校に関しては数年前から現場から建て替えの要望がきている。年々その声は学校だけではなく保護者、PTAも入って強くなっている。ですが、平成18年に耐震補強をしているのですぐにはできない。経過年数の60年を迎えた場合にはやらざるを得ないと考えている。

委員長：この検討委員会で考えなければならないのは、成東中学校ぐらいと理解しておけばいいか。

教育長：松尾小学校等々も大分よわっているが、我々が見る限りにおいてはまず成東中学校。他は少し我慢していただけるかなと考える。

委員長：教育予算で周辺交付金の3千万円。これは電気代などのランニングコストでこれ位か。学校の防音工事などで措置される分は入っていない、そもそもそういう工事はなかったという理解でいいか。

事務局：平成23年度は無かったということである。

委員：交付税措置されている数値と実際に支出している額から、影響が少ないと考えられるということだが、公債費は入っていないのか。

事務局：入っておりません。

委員：いずれ校舎の改築や施設改修などがあつた場合には、交付税で対応できるという答えは出てこないと思うがどうか。

事務局：1年間にかかる維持管理費だけの比較でこういうことが言えるという解釈である。

委員長：地方公共団体は複式簿記を採用していないので、企業会計だときちんと期間を決めて償却してというようなことをするが、全くしないので建て替えとなった時にどんと出てくる。本当であれば建てた時から償却していけばと思うが、そういう発想がないので仕方がない。

(6) 先進地視察について

事務局：資料に基づき、先進地視察についての説明

委員長：ここを出した答申は協議(1)の資料に含まれているか。

事務局：入っていない。

委員長：視察までの間に答申を調べて各委員へお送りいただきたいが、視察までの間に会議は予定しているか。

事務局：会議がない場合はお送りする。

委員長：視察の時期は視察先の都合もあるので2月でいかがか。

各委員：視察時期は2月で了承。

事務局：2月で視察先と調整する。

(7) 意見交換

委員：中学校の学校規模（学級数と生徒数）はどれ位が1番適正なのか。

委員長：中学校だけでなく小学校についても形としていただければありがたい。望ましい理想とする規模はどうか。

事務局：望ましいのは難しいが1学年2学級以上。学校全体で6学級以上が望ましいと思う。できれば3学級くらいが一番いいと思うが。

委員：そうすると生徒数が学年で70人前後、3学年で200人前後ということか。

事務局：はい。

委員：先生方はどれくらいの配置になるのか。

事務局：17、18人になると思われる。ただ、学校規模が小さくなると特別教科は2校兼務ということもあるので、少なくなる可能性もある。

委員：6学級あって200人前後だと、例えば音楽、体育、美術は専門職が配置になる訳ではないのか、それでも兼務になるのか。

事務局：週1時間という教科があるので週6時間しか持たない、そうすると兼務が発生する。

委員長：教師の配置を別の角度からお聞きするが、教師の配置をベターにするというともっと大きな規模にしなければということか。

事務局：だいたい1人の教師の必修時間の持ち時数は週24、25時間。その内、学級活動などで4時間、教科で20時間位の指導時間ということになる。6学級で20時間という週に3時間以上の教科については1人確保できる。しかし、それを下回る教科については基本的には兼務になる。ただし、例外があり臨時免許(仮免許)を使って1人の職員が2教科持つこともある。でも、理想とする姿から見れば1人の授業時数は一般的には20時間程度ということになる。

委員長：今、山武市の中にそれをクリアできている学校はあるのか。

事務局：申し訳ありませんがそれは今ここで即答できません。

委員長：例えば小学校でいえば、音楽の教師はどこでもいるのか。

事務局：小学校では基本的に全教科を1人の教師が教えることになっている。

委員長：音楽などは別にいるのではないのか。

事務局：基本は学級担任が教えることになる。

委員：来年から豊岡小学校が複式になるようだが、他の自治体の例で複式学級になると小学校から中学校にあがった時に、学力が落ちるといったことはないのか。

事務局：はっきりしたデータはない。

委員：校舎の整備状況の資料について、市内の学校の校舎は全て安全(耐震基準を満たして)ということではないか。

事務局：校舎については耐震化率100%となっており、今後は、体育館の非構造部材の耐震化について取り組んでいく予定である。

委員：成東中学校では建て替えの要望が強くなっているとのことだが、古いから或いは古いから危険ということなのかと聞いていたので質問した。

教育長：耐震に関しては、山武市は合併以来いち早く対応してきたので、県下の中でも優秀だと思っている。ただ、成東中は校舎へ行っていただけるとわかるが、配管等がむき出しになっており老朽化はかなりしている。躯体そのものの耐震は補強をしてあり問題ないが、よその学校と比べるとあまりにも格差が出てきて、子どもたちにはかわいそうだなという現状がある。

委員長：3.11の地震の検証作業をしているが、鳴浜小学校の体育館の水銀灯が激しく揺れて、非難した人たちが、余震のたびに落ちそうなので、そのところが空間になったと聞いたが、落ちることはないのか。

事務局：震災の少し前に建てたものですから、問題ないと思われまます。

委員：松尾小学校の校舎は屋上にプールがあり水漏れがしていると聞いたがどうなのか。

事務局：屋上の防水工事は完了しているが、プールの排水管から漏水しているようで、修繕を行っているところである。

教育長：今、松尾小のプールの話がなかったので、この検討委員会でも検討していただかないといけないと思うが、なかなか補修ができないものもある。ましてはこういう統廃合問題も出ている。プールの使用というものが昔より少なくなっている中で、新しくプールを造った場合は多額の費用がかかる。それなのに松尾小に新しくプールを造った方がよいのか、造ったはいがこのあり方検討委員会で、松尾小はどこかと一緒になった場合はどうなるのかということで、教育委員会としては、できるだけの補修をその度ごとにしていこうと考えている。

委員長：これから様々なことについて皆様にご協議いただきたいと思う。本日は現状について事務局から説明をいただいた。それを踏まえて2月に先進地を視察して、いよいよ核心に入ったご議論を皆様にごいただくようになると思う。どうかそれまでに協議(1)の他の自治体の答申の資料をお読みいただきたい。それぞれの自治体が抱えている問題はおよそ似かよっていると考えられるが、本日の教育予算の説明では、財政面から見て施設の維持管理の面では、財政を圧迫している状況は少ないと考えられるので、どうしたら子どもたちが教育という将来に対する見通しについて、その子どもたちがこの地域を創っていくことは事実であるので、そのことに心してお考えをいただきたいと思う。

(8)その他

なし

○ 閉会